

令和6年度学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校) S25

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校
--------	--------------------------------------

重点目標	1 授業と学習支援を充実させ、学力の向上を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を促す 2 きめ細かな生徒指導と特別活動・部活動の充実により、生徒の自律心と社会性を身に付けさせる 3 多様な進路に対応するきめ細かな進路指導により、生徒の進路希望を実現させる 4 学校の情報発信と、地域・保護者との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 ○授業へ取り組み態度は大変良好で基礎学力が身に付いている生徒がいる一方で、基礎学力が未定着な生徒も少なからずいる。 ○教材の共有や読書の相互見学など、教科に関する教員間の情報交換はできている。また、ICT機器を活用した授業等も増えてきている。 【課題】 ○学習を苦手とする生徒に対する77の工夫や補習の充実が必要である。また、家庭学習等授業外の学習時間確保を図る取り組みが必要である。 ○授業法やICT機器の活用法等の研究を目的とした互見授業の更なる活性化が必要である。	○主体的学習を促す取組と生徒の学力の向上	①朝学習の効果的な活用 ②計画的な課題の提示 ③授業外学習時間の確保 ④手帳を活用したスケジュール管理の励行と進路意識の向上 ⑤進路希望・学力に応じた面談・補習等の頻回実施	①朝学習に対する生徒の取組状況 ②課題の提示状況 ③生徒アンケート「授業以外の学習時間」の取組状況 ④手帳の有効な活用状況 ⑤学習支援の取組状況 ①～⑤成績上位者・欠点保持者の数 ①～⑤学びの基礎診断テストの結果		
		○授業改善の取組状況と、授業力の向上	①相互授業観察月間の複数回設置 ②情報交換しやすい職員室の雰囲気づくり ③タブレット等ICT活用や「未来学び」等の研究授業の充実 ④各種研修会の実施 ⑤ICTに係る授業支援環境の整備	①教員間授業観察の実施状況 ②職員室での情報交換の状況 ③タブレット等の活用状況 ④研究授業の実施状況 ⑤授業力向上の研修会の実施状況 ①～⑤生徒アンケート「授業のわかりやすさ」、「授業改善」の状況		
2	【現状】 ○組織的で丁寧な生徒指導・支援が行われており、生徒は規律ある学校生活を送れている。部活動の実績も安定している。 【課題】 ○生徒指導の場面で、各々指導に偏りが出ないように全教員が同じ意識で指導に当たることが必要である。 ○9割以上が自転車通学であり、生徒自身が命を守る意識を高めるよう、交通安全指導の充実が必要である。 ○部活動や特別活動等では生徒の主体的な取組を増やすことで、より活性化させる必要がある	○丁寧かつ組織的な生徒指導・支援と交通安全指導の充実	①生徒指導・支援に係る職員研修会の実施 ②SC他専門支援員との連携 ③交通安全教室等の実施や登校指導の頻回実施 ④遅刻指導の徹底	①研修会の実施状況 ②専門支援員の活用状況と連携 ③長欠者の数、相談の状況 ④交通事故の件数 ⑤遅刻者数の状況		
		○部活動・特別活動の更なる活性化	①HP等における各部活動の積極的な広報活動 ②部活動を頑張る雰囲気の醸成 ③施設・グラウンド等の活動環境の整備 ④特別活動・学校行事の実施方法の工夫 ⑤ボランティア活動、地域との交流の活性化	①HPの更新回数 ②部活動加入率及び実績と成果 ③施設・設備の改善状況 ④特別活動の実施状況と生徒アンケート「行事に積極的に参加」の割合 ⑤ボランティア活動、地域との交流活動の実施状況		
3	【現状】 ○3年連続で進学率が80%を超え、進学実績の向上も見られる。就職についても内定率100%を維持している。 【課題】 ○進学では、生徒一人一人がより高く設定した上級学校への進学を目指す ○就職では大手企業や地元企業の内定や公務員試験の突破等を目指す	○生徒の第1希望の進路実現	①学びの基礎診断テストの有効活用 ②組織的な進路指導・補習体制を強化する ③進路支援機関や専門支援員との連携を強化 ④SEIRYO手帳の活用や進路行事による進路意識の向上 ⑤進路閲覧室の進路資料の充実と利便性を考えた環境整備	①面談・学年会等での活用状況 ②進路研修会の実施状況 ③進学補習の開講状況 ④キャリア教育に係る啓発的取組の実施状況 ①～⑤生徒・保護者アンケート「進路指導充実度」の割合 ①～⑤進路実績状況		
4	【現状】 ○秋の入試希望倍率が高いが、最終倍率下がってしまう傾向が続いている ○昨年度、開校40周年を迎え、PTA・後援会との連携が深まった。次の10年を見据え、さらに連携を深める。 【課題】 ○中学生や保護者が来校し、実際に本校の教育活動内容や魅力を体感してもらう機会を増やすなどとして、中学生が行きたいと思う学校とする。 ○PTA・後援会活動や地域との交流を活性化させ、学校・保護者・地域みんなで子供たちの成長を見守る。	○積極的かつ効果的な広報活動の展開	①進学フェアへの参加と学校説明会・部活動体験の充実 ②教職員、保護者、生徒全員で本校の魅力进行宣传する ③HPの組織的な更新体制の整備と内容の充実 ④中学校や塾へのPR	①進学フェア及び学校説明会への中学生の来場数 ②組織的な広報活動の実施状況 ③HPの更新状況 ①～④中学生の本校への希望状況		
		○PTA・後援会活動や地域との交流活動の更なる活性化	①文化祭等の学校行事へのPTAの参画を増やす ②教育活動や環境整備に、PTA・後援会の予算を効果的に活用する ③部活動や生徒会活動等で小・中学校や地域との交流事業を実施 ④地域清掃活動とボランティア活動等の実施で地域との交流を増やす	①保護者の学校行事への参加状況 ①保護者アンケート「入学満足度」の状況 ②予算の効果的な活用状況 ①②PTAの活動状況 ③各交流事業の実施状況 ④地域の清掃・ボランティア活動等、地域との交流活動の実施状況		

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 年 月 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	